

人が伸びる会社 日本一面白い会社をめざす 甲賀高分子を取材しました！

リポーター 奥村 志保美

今回お話を伺ったのは、市内に本社を構える甲賀高分子株式会社。同社は、近年くるみんを始め様々な認定を受けられ、魅力ある会社づくりを積極的に進めている。

私たちを出迎えてくださったのは経営企画室の深井室長と、2度の育児休業から復帰され現在は短時間勤務でキャリアを継続されている総務係の吉野さん、2人のお子さんを持つパパであり同社で初めて育児休暇を取得された京都営業所の包装プランナー（営業）神谷さん。

○社長から育児休暇の取得を勧められ…

神谷さんは、1人目のお子さんが生まれた際に、休みを取ってみたいはどうかと社長から直々に提案されたという。昨今男性の育児参画が話題になっているが、休暇を取りたくても本人からは言い出しにくい風土が残っている。上司から積極的に取得を勧めてもらえる環境は素敵だと思う。

神谷さん自身も後に続く後輩たちに育児休暇を勧めているそうで、こういったやりとりによって男性の育児休暇が自然に定着していくのではとも感じた。

○女性の力を伸ばすポジティブアクション

続いて吉野さんにお話を伺った。元々は営業事務を

されていたが、育休復帰後に短時間勤務の可能な業務に異動されたとのこと。同社では取材時に3名が出産育児休業中だったが、出産を経ても働き続けるための会社からの配慮があるから安心して休み、働けるのではないだろうか。さらに育児休暇等による人員不足には基本的には正社員採用によって対応されているとのこと。

また定期的に女性社員による意見交換会を行ったりキャリアアップ研修を開催したりと、会社をあげた女性活躍推進を実践しておられた。



◀深井室長

○ワーク・ライフ・バランスは一人ひとりの意識から

深井室長からお伺いしたのは、今最も力を入れておられるワーク・ライフ・バランスの取組について。数年前から時間外労働の削減に取り組んでこれ、現在は時間外労働が月平均8時間弱にとどまるまで成果をあげているという。

物理的な効率化とあわせて、一人ひとりが時間管理をしっかり行い生産性をあげる働き方を意識することで実現できたと説明いただいた。これからはITを利用してさらなる生産性向上を計画しておられるということで、今後の取組にも注目していきたい。

今回の取材を通して、甲賀高分子株式会社はすべての取組がバランスよく調和している会社だと感じた。同社のような取組が広がることで、湖南市が「人が集まるより良い地域社会」になっていくのではと期待している。

甲賀高分子株式会社

（所在地） 湖南市石部北1丁目4番26号
従業員数 97名
（男性：59名／女性：38名）
業 種 製造業（高分子素材メーカー）

NEXT ⇒

次のページから「いきいき講座&フォーラム」
目からウロコを落とします！



◀吉野さん（左）、
神谷さん（右）

今年度のいきいき講座では、ジャーナリストとして労働問題やジェンダー問題に取り組まれている和光大学の竹信三恵子を講師としてお招きし、1 回目に男女共同参画について社会的背景から学び、現代社会を自分らしく生きぬくためのヒントを教えてくださいました。

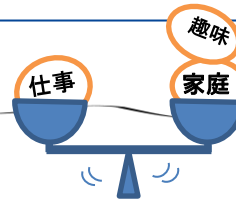
2 回目には、ニュースを男女共同参画の視点で読み解くミニ講座と、市内在勤パネリスト等による「子育て世代の働き方」をテーマとしたパネルディスカッションの2部構成で行いました。

どう乗り切る!?

働き方・暮らし方の大転換時代

日時 平成29年(2017年)9月9日(土)午後1時30分~

場所 みくも地域人権福祉市民交流センター



ひとひと
女と男グッドパートナー
いきいき講座



◆講師紹介◆

竹信 三恵子さん(和光大学教授・ジャーナリスト)

朝日新聞経済部記者、労働担当編集委員兼論説委員などを経て2011年より現職。非正規労働問題やジェンダー問題、働き方と貧困の関係などを中心に取材を続け、現在は労働社会学、マスメディア論などを専門にしている。著書に、「正社員消滅」(朝日新書)「家事労働ハラスメント」「女性が活躍する国しない国」(岩波書店)「ルポ賃金差別」(筑摩書房)など多数。

リポーター 西村 真喜子

この講座を聴いて感じたのは、「やはりそうだったのか!」「孤軍奮闘で解決できなかったはず!」であり、「なぜ女性だけ?」「子どもを預ける所は?!」や「女性は損?!」と思わずにいられなかったこれまでの謎がとけた。さまざまな人の助けと、自らがもがきながら夢中で乗り切ろうとした日々を思い出した。今頑張っている世代に、若い世代にはぜひ聴いてほしい内容だった。

講座はまず、わたしたちが今どんな社会にいるのか、政策的な視点で読み解くことから始まった。男女格差指数(ジェンダーギャップ指数)は144か国中114位が今の日本社会である。男女平等の度合いは「健康」で1位、「教育」74位、「経済」114位「政治」123位となっている。言い換えれば高等教育の格差、賃金格差、意思決定への参加度格差とも言える。いずれも女性の割合が低いことは言うまでもない。

この格差は若者の貧困、単身女性、単身女性高齢者、シングルマザーたちの貧困、働く女性の非正規は半分以上、その賃金は男性正社員の半分という現実をものがたっている。これらの背景にある長時間労働と家事労働蔑視と家事や育児労働を無視してきた雇用の危うさを指摘された。

家事労働は多少の差、育児のある・なしに関わらず誰にも付いてくる。育児が付くと女性はいっそう

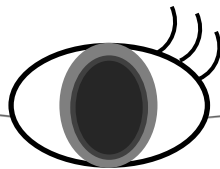
働く場や職種が厳しくなる実態。

でも「女性が輝く」ために、女性も納税者にしたスウェーデン、パートの均等待遇化のオランダ、家事との両立できるよう標準労働時間を週35時間としたフランスなどの先進国の例がある。講師は、日本では男女でなく女女格差の拡大の問題もあると指摘した。それは男並みの長時間労働や家事サービス購入が可能な女性とそうでない女性の間に生じる格差で、家事労働を無視した政策下では、この格差はますます拡大していく危険性があるという。

そこで「幸せに働けるための条件」に家事労働の公正な再分配を挙げ、企業：労働時間規制→男性：家事の分担→行政：保育、介護サービスの強化をしめされた。この家事労働への着眼と正当な評価を掲げられたことに希望がみえる。

そして、根強く社会の意識の底に流れる、女は内、男は外を変えるためにも、これからの生き方術の一つとして、女性のネットワークの再建、負け癖から脱出、自立の意味の再考することも聞けた。自立して一歩進んでいる女性は後に続く女性のためにも力を貸してほしい。

さて、「男と女」から「男も女も」で「一人一人(個人個人)」が輝いて生きたいものである。そのために、女性も男性も共に語り合い、考え合い、共に知恵を出し合い、楽しく暮らすことをめざしましょう。



ひとひと
女と男グッドパートナー
いきいきフォーラム

目からウロコのニュースの読み方

男女共同参画とメディア

日時 平成30年(2018年)1月28日(日)午後2時～

場所 共同福祉施設(サンライフ甲西)

ミニ講座

ニュースの裏側に私たちの気づかない男性と女性の大きな変化が出ています。

なぜ男女共同参画、女性活躍といったものが必要になってくるのか、3つのニュースの背景から探りましょう。

取り上げたニュースは・・・

ニュース1「保育園落ちた、日本しね」をめぐる反響＝政策の不備への挑戦的投稿

匿名ブログ「保育園落ちた。日本死ね！」が注目されて間もなく1年。4月入所をめざした認可保育所の選考結果通知が2月から本格化し、落選ラッシュで今年も親たちが悲鳴を上げている。

ニュース2「電通過労自死事件」＝女性はなぜパートタイム労働を選ぶのか

違法残業をめぐって労働基準法違反罪に問われた広告大手「電通」の事件で、東京簡裁(菊地努裁判官)は10月6日、求刑通り罰金50万円の判決を言い渡した。

ニュース3「赤ちゃんポスト運用10年」＝「経済」「人間関係」「性教育」の貧困がもたらすもの

親が育てられない子どもを匿名で預け入れる慈恵病院(熊本市)の「このとりのゆりかご」(赤ちゃんポスト)の運用開始から10年が経過。9月23日、ポストの運用を検証する市専門部会(部会長＝山縣文治・関西大教授)は大西一史市長に検証報告書を提出した。

現状

男性が家族を養い、女性は家事・育児の担い手となることを前提とした
「お母さん依存」の高い政策

主要な産業が海外へ進出し
賃金は下がり続けている

課題

育児や介護の
公的施設の整備が遅れている

残業代を稼ぐため
長時間労働が減らない

みんなで
解決！



→企業…生を支える労働を見込んだ労働時間設計

→行政…女性だけに抱え込まれた育児・介護を分担する公的施設を

→男性…増えた生活時間で女性の無償の労働の分担を

→女性…空いた時間で経済力をつけ、男性の経済負担を分け持つ

パネルディスカッション

どのようにしたら私たちは男女共同参画を進めていけるのか、地元のパネリストから取組を聴くことで、
どういう解決策や提案がされているのか、身近な話に落とし込んでいきましょう。

パネリスト(五十音順)

伊東民恵さん：元幼稚園教諭で現在は湖南省市商工会勤務。女性の起業を応援中。

宇野拓也さん：保育士7年目。市内こども園で5歳児クラスを担当。

奥美智子さん：中学校教諭、現在は休職し、専従役員で滋賀県教職員組合女性部長を務める。

中野龍馬さん：本業はHP作成など。市内でコワーキングスペースを運営している。



ニュース1「保育園落ちた、日本しね」をめぐる反響

中野：不思議だったのは、「滋賀県だったら保育園入れるのにな」ということ。来ない理由はあるんだろうけど、地方はまだ人が足りない状態で、女性も働きやすい会社がいっぱいある。

竹信：地方と都市とのミスマッチはものすごく大きい。

奥：例えば、子どもを連れて電車に乗るとか、公共の場に出かけるという時に、迷惑をかけてはいけないという雰囲気がある。色んなことを自分の責任にされていて、それをみんなで支えていこうというところがないように感じる。

宇野：保育士の仕事は準備や考えることなど周囲に見えない仕事も多い。持ち帰る仕事も多く、やってみたら違ったという声もある。魅力を感じて保育士・幼稚園教諭をめざす人というのはだんだん少なくなっている。このままでは地方でも都市と同じようなことが起こるのでは。

竹信：保育士や教諭は人を育てる重い仕事なのに待遇は悪い。潜在保育士の47%が待遇が悪すぎるので違う仕事をしようがいい、と回答したという調査もある。

伊東：祖父母との同居にもいい面がたくさんある。そういう選択肢もあるのでは。ただ、これから日本が女性の社会進出を本気でめざすのであれば、「お母さん依存」を変えなければいけない。

竹信：祖父母との同居はいい人もいるし、ダメな人もいる。「それも悪くないよ」はあってもいいけど、「おばあちゃんに見てもらえばいいでしょ」になると危ない。女性がモノを言うのを嫌がる風土も地域によってあるので、それは変えたほうがいい。

中野：体験移住のようなことを行政としてやっているところもある。でもまだ全然浸透していない。知る、知らないって思っている以上に大きい。日々の生活のなかでその情報を仕入れるのに行政に行くのは難しいと思う。伝えたい行政、制度を作っている側は、そういう人たちに気軽に伝えられる環境（インターネット、SNSなど）をもっと活用すべき。



◀中野龍馬さん

ニュース2「電通過労自死事件」

伊東：残業の問題でいうなら、業務を減らさず残業を減らせというのではどこかにしわ寄せがいくのでは。今のままでは持ち帰りの仕事やサービス残業になるだけ。

宇野：保育士はやり取りが多い職場なので孤立感はない。手伝ったり、みんなで分担したり、量はあるかもしれないが大変さは少ない。このニュースを見て思ったのは、家族や友だち、メディアに言ったりできなかったのか、事件になってから改善されるのはすごく残念。

奥：「女だけど男並みだと証明するためにがんばらな

きやいけない」というのはすごくわかる。職場に女性が少数だと「女性の代表として女性の意見を述べなきゃ」とか変に気負ってしまう。

長時間については、中学校は部活というのが大きく、ブラック部活とも言われている。特に男性は家庭があっても土日でも出て「子どものために」がんばるのが当たり前とされている。子育てがあったらみんなでも配慮しようという動きはあるが、それも性別によってギャップがあるように思う。



◀奥美智子さん

中野：設計会社に勤めていたとき朝は7時に出て、帰るのは終電という生活が2年くらい続いた。辞めたらいい、という選択肢は本人には見えない。やらないとダメというルートに乗っかっているほうが他に考えなくていいから楽。でも精神的にはギリギリ。これは個人じゃ解決できない。

竹信：長時間労働で本人が相談に行っているのはほとんどない。自分がだらしがないからしっかりしないと、とがんばりつづけて死ぬというケースが多い。「そういう時は辞めてもいい」と言ってくれる人がいるとか、事前に知識のある人は辞められる。だから学校の教育は大事。日本の会社の一番の問題点は管理職の教育ができていないこと。全体を見渡して仕事の配分がきちりできるのが管理職。多様な人がいれば違う人をどう組み合わせればいいのか考えざるを得ないので、管理職の意識を変えるためには、女性が増えることが必要。

ニュース3「赤ちゃんポスト運用 10年」

宇野：性教育の貧困というワードもあったが、これが必要と感じた。僕もこの仕事に就くため大学で性教育を受けた。男子生徒と先生だけで教科書ではないリアルな話をして、今までにない学びや怖さがあった。高校・中学生レベルでもそういう学習がされて、性の大切さや子どもを育てる厳しさを肌で感じられる授業があってもいいと思った。

竹信：とりわけ子どもさんを導くという立場の人には不可欠。

4コマ漫画 あ、それ 家事ハウです！



※総務省「平成28年生活基本調査によると6歳未満の子を持つ世帯(夫が有業で妻が無業の場合)の妻の1日の家事関連時間は9時間25分、夫は1時間15分となっています。

原案：人権擁護課
作画：黒葛原 有紀(つづらはら ゆき)



◀宇野拓也さん

奥：女性の自立ということでは、夢を叶える、やりたい仕事をしましょう、みたいなことだけじゃなくて、ワーク・ライフ・バランス（WLB）を考えながら生活も仕事も充実させるためには、ね、というのを学校でもうちょっとやっていかなければと痛感する。

中野：赤ちゃんポストがなくなったら、不幸に命を落とす子どもはもっといると思う。赤ちゃんポストは預ける件数が多いことが問題なのか。

竹信：経済的にも、女性が働きながら子どもを育てるというのは非常に難しい。一方で、母親が子どもを育てなければいけないという社会的プレッシャーは強い。大阪で母親が子ども2人を餓死させてしまった事件があったが、周りの関わりが違っていれば子どもは助かったかもしれない。

中野：たしかにシングルマザーが子どもを育てなが

ら働くのは相当難しいと思う。だからそうなった時には、手助けしてくれる地域に移住するという選択もあるのでは。

竹信：シングルマザーは、まず仕事を探そうと思っても子どもを見てもらってないといけない。実家に子どもを預けて動けるような一定の地域で仕事を探すので移住が難しい。

伊東：望まれない妊娠とかそういうことが起こらないような社会にしていけるのは大前提。叶えたかった妊娠が叶わない人もたくさんいる。赤ちゃんポストの子ども達がそういう人たちと巡り合える道として残ればいい。

竹信：まずは自分の体は自分で決めていいんだよ、というところの教育ができていない。断れなくてセックスして子どもができて産んでしまう。だから、産んでから「助けて」と相談できるシステムや、自分のことは自分で決めていいんだという教育が非常に大事。



◀伊東民恵さん

～参加者アンケートから～

男女共同参画が進んでいるとはいえ、女性の育児・家事の負担の大きさ、社会的に弱い立場にいることは、今もあまり変わっていないのかな…

話を聴いてくれる場所（人）、環境を作らないといけないのでは。

オトコが責められるという空気ではなく、国（社会）に大きな責任があるという方向で良かった。

日頃から多様な考え方、知識に触れることで、その時々判断ができる力を子ども達につけてほしい。



くわしい内容は市のホームページに掲載しています♪

湖南省 いきいき通信

検索

！こんなこともやりました！

その1 パパ子でお掃除を楽しもう！

7月22日(土曜日)午前10時～(雨山研修館 宿場の里)

日本で唯一の家事シェア研究家 NPO 法人 tadaima! の三木智有さんを講師に迎え、親子で参加するワーク・ライフ・バランス講座を開催しました。家事シェアについてのワークショップの後、三木さんから伝授されたコツを生かしたぞうきんがけをしました。



参加者の声

- ・家事シェアで家族に笑顔が増える！そして自分自身が変わるチャンスでもある。
- ・家事から笑顔・感謝が生まれるということ、実感できるようになればいい。
- ・男性でも女性でも働きたい人が働けて、家のことをして支えたい人はそれを実現できれば…。

その2 脱！自分流コミュニケーション～才能を引き出す人になる方法～

11月14日(火曜日)午後2時～(共同福祉施設(サンライフ甲西))

株式会社 宙(SORA)の代表取締役であり、ビジネスコーチである栗栖佳子さんを講師に迎え、なぜ今女性活躍なのか、組織にどのような影響があるのか、価値観の違いを生かすスキルなどについて学びました。

ワークショップでは参加者同士で話に花が咲きました。



参加者の声

- ・コミュニケーションって情報だけじゃなくて、感情も共有することなんだ！
- ・会社だけでなく家族に対しても役立つ内容。
- ・「変える」、「変わる」のはやっぱり自分からなんだと再認識。
- ・色々な要素が盛り込まれていておもしろかった。

その3 女性活躍推進の事例集「JOKATSU」ができました

身近で活躍する女性が抱える課題や今後の展望、また女性活躍を推進するため市内企業などでどのような取り組みがされているのかを紹介するわたしのまちの事例集ができました。

ご希望のかたにお渡しできますので、人権擁護課までお問い合わせください。

JOKATSU
わたしのまちの女性活躍・働き方改革事例集



11月 22日 土曜
～女性活躍推進講座～
講師：三木智有さん
会場：雨山研修館 宿場の里
11月 22日 土曜
～女性活躍推進講座～
講師：三木智有さん
会場：雨山研修館 宿場の里
11月 22日 土曜
～女性活躍推進講座～
講師：三木智有さん
会場：雨山研修館 宿場の里

私がなぜ？料理を・・・

リポーター 青木 信二

ちょうど10年前、ある友人から男の料理教室に誘われました。それまでは「料理は女がするのが当たり前」、戦後に育った者ですから男が料理なんて考えていませんでした。

でも、仕事も第一線から退き、今までとは違い少し家にいる時間も増え、「何かしなくては…」とは思っていました。そんなある日、妻が風邪で寝込んでしまい、飯すら炊けない自分に「これでは…」と、これからの老後に不安を感じました。

そんなときの友人からの誘いだったので「やろう!」と決断したのです。「これからの老後は俺に任せとけ」の気持ちで早 10 年。3年前、男女共同参画リポーターになりましたが、当初は「なんで私が」「何をするの」まったく理解ができませんでした。昭和生まれの男だから頭の切り替えがなかなかできず、ようやく少しは理解をすることができるようになりました。

私は料理教室で調理や片付けを経験することで妻の大変さを知り、いまは少しでも家事の手伝いをしています。なにも難しく考えなくても、いま自分がやっていること、これだけでも良いのでは…と思っています。昭和、平成と時代は変わり、最近では共働きは当たり前の社会。「男だから」「女だから」と言われたのは昔話、とまでいえる社会を築くためには、もう少し時間がかかるとは思っていますが、社会全体で「男と女、グッドパートナーとは…」の波紋を広げていく活動が必要だと思っています。



◆◆◆これからのこと◆◆◆



働く場、子育て、介護、防災、地域…くらしを新しい視点で見つめ直すための講座に参加しませんか？

男女共同参画講座では託児サービス(無料)も利用いただけます。子育て中のかたも気軽にどうぞ！

また、ご希望のかたには講座情報をメールでお送りしています。くわしくは人権擁護課へお問い合わせください。

■編集

湖南省男女共同参画リポーター

青木信二、西村真喜子、

久田和美、森富裕子

湖南省工業会・石部政貴、種橋直実

湖南省商工会・足立一三

(株)シンコーメタリコン・奥村志保美

■問い合わせ先

〒520-3195 湖南省石部中央1-1-1

湖南省人権擁護課

TEL (77) 8512

FAX (77) 4101

Eメール jinken@city.shiga-konan.lg.jp



(メールアドレス QRコード)

3月	3月	2月	1月	12月	10月	9月	8月	6月	5月
22日	28日	28日	28日	14日	26日	9日	18日	29日	25日
いきいき通信配布	第6回会議	事業所への取材	いきいきフォーラム	第5回会議	第4回会議	いきいき講座	第3回会議	第2回会議	第1回会議

平成29年度年間活動内容



男女共同参画リポーターについては、労働者の観点からの意見・提案も取り入れ、より実態に応じた取組を行うため、平成25年度から工業会・商工会にもご協力いただいています。